

アニマルレイキとペットサインの相乗効果、鏡の法則、健康と病気の関係について

田村 和広

私の好きな言葉に、マハトマ・ガンジーの「動物の扱われ方を見れば、その国の品格（徳）がわかる」というものがあります。顧みるに、日本の動物をめぐる状況は、どうでしょうか？関係各位の努力により、犬猫の殺処分数は年々減少傾向にあるとはいえ、動物愛護の考え方が浸透しているヨーロッパ各国に比べれば、道半ばといった状況です。日本もガンジーに胸を張って、「品格ある国です」と言えるようになるため、ペットサイン協会は、以下のようなヴィジョン（理念）を掲げています。

人と動物が真の友人になれる共生社会へ

人と動物が同じ言葉で語り合える世界へ

小さな命が慈しまれ尊ばれる時代へ

このヴィジョンは、アニマルレイキ協会の理念とも相通じるものです。

アニマルレイキとペットサインは、相乗効果がとても高く、アニマルレイキを習得することにより、動物との各種コミュニケーションが円滑になるため、ペットサイン協会のカリキュラムにもアニマルレイキを取り入れています。

ペットサインもアニマルレイキも本質は宇宙との共鳴技術です。

「すべての物質は固有の振動数を持つ」と述べたのは、ドイツのノーベル物理学賞受賞者マックス・プランク博士です。すべての物質は、波動の性質を持ち、同じ波動を持つもの同士は共鳴します。

アニマルレイキは、宇宙と共鳴し、動物の波動に合ったエネルギーを流すので、優れたコミュニケーション・メソッドであるという側面を持っています。

私は、宇宙の本質に触れたときに起こる現象が、真のコミュニケーションであり、癒しであると考えています。深い部分でつながったとき、そこにコミュニケーションが起きており、また同時に癒しが起きています。アニマルレイキ（癒し）とペットサイン（コミュニケーション）は、コインの表と裏のような関係にあるのです。

逆にコミュニケーションと癒しの本質を知れば、宇宙の本質がわかります。人は、ミクロコスモス（小宇宙）とマクロコスモス（大宇宙）の中間に位置し、両者をつなぐ存在であるとも言えます。

その昔、宇宙創世の頃のことです。

ビッグバン仮説によると、宇宙は極小の一点からの大爆発により生じたとされています。つまり、すべてが一体であった一点から宇宙が生まれたのです。

私たちが存在している銀河系には、太陽と同じ恒星が 2,000 億個輝いています。直径は 10 万光年。1 秒間に 30 万キロメートル進む光の速さをもってしても端から端まで行くのに 10 万年もかかります。さらに私たちの宇宙の半径は、465 億光年と推定され、その中には、銀河系のような銀河が 1,700 億個以上あると言われています。気の遠くなるような広がりです。

しかし、一方、最先端の量子物理学では、このようなことが言われています。お互いに何らかの相互作用があった粒子は、どんなに離れても関係性を保ち続け時空を超えて相互作用を行うと。片方の粒子に起こった変化は、時空を超えて伝達されるのです（非局在性）。この相互作用こそが、コミュニケーションそのものの本質です。私たちの宇宙に存在するすべての物質は、質量・大きさとも 0 の一点から創生されました。言葉を変えれば、ワンネスです。そこから爆発して今なお膨張を続ける宇宙。しかし、一体であった頃の記憶をすべての



粒子は持っています。このときの一体感、調和を取り戻そうとする力こそが、コミュニケーションの本質であり、ヒーリングの働きです。

さまざまな研究によって、ある一定数の人が瞑想を行った地域では、犯罪率が低下することが確かめられています。私たちは見えないところで宇宙とつながっており、意識の変化が周囲に影響を及ぼし世界を変えていけるのです。

アニマルレイキとペットサインは、癒しとコミュニケーションという一見別々のことを行っているように見えますが、本質的にはやっていることは同じだと考えています。宇宙との一体感を取り戻すこと、愛と調和の世界を実現すること。その手段としてのアニマルレイキでありペットサインなのです。今後もアニマルレイキとペットサインがともに手を携えて世界に広まっていくことにより、愛と調和の世界の実現に貢献できることは、大いなる喜びです。アニマルレイキ創始者の福井利恵先生には、ペットサイン協会の副代表も務めていただいています。私自身もアニマルレイキ協会に協力し、ともに目指す愛と調和の世界の実現に貢献いたします。

もう一つ、別の観点から飼い主さんとペットのあり方を見てみましょう。

「ペットの姿は、飼い主の鏡である」という考え方があります。「ペット版鏡の法則」は、ペットサイン協会とアニマルレイキ協会がともに重視しているコンセプトの一つです。

飼い主さんのストレスは、ペットにダイレクトに影響します。アメリカの研究では、飼い主さんのストレスホルモンのレベルと愛犬のストレスホルモンのレベルが見事な相関関係にあることがわかっています。

なぜ、飼い主さんのストレスがペットに影響するのでしょうか？それは、動物がノンバーバル（非言語的）コミュニケーションの達人だからです。ノンバーバル・コミュニケーションは、つながりの言語です。人間の言葉のように抽象化され、リアリティから切り離されたコミュニケーション・ツールを使わない動物は、飼い主さんと表裏一体の関係になりやすいのです。

実際、飼い主さんの健康状態は、ペットの健康状態に大きく影響します。ペットの病気や体調不良は、飼い主さんの状態を映し出す鏡のようなものです。ペットの健康管理においては、ペットそのものへのアプローチもさることながら、環境や飼い主さんの状態を整えることが非常に大切です。川の流れに例えるならば、環境や飼い主さんが上流で、ペットは下流です。下流に生じた川の汚れをきれいにするためには、川を汚している上流の要因を特定して対処することが重要なのです。

余命宣告された犬の悪性腫瘍と飼い主さんの悪性腫瘍の原因が共通し、飼い主さんが治ったら犬の悪性腫瘍も治った事例もあります。私自身の体験でも、愛犬が体調不良に陥ったとき、原因を調べると飼い主側にその原因があり、それに対処すると愛犬の病気も回復した体験があります。

病気と健康は、表裏一体です。

WHOの定義によりますと、「健康とは、完全に、身体、精神、および社会的によい（安寧な）状態であることを意味し、単に病気ではないとか、虚弱でないということではない」とされています。

また、近年では、この定義に「霊的」、「動的」という言葉を加え、「健康とは、身体的・精神的・霊的・社会的に完全に良好な動的状態であり、単に病気あるいは虚弱でないことではない」という定義も登場し、WHOの総会採択には至っていませんが、議論されているところです。

健康は、身体・精神・霊性・社会性のバランスの上に成り立つものです。どれかの要素が欠けたりバランスが崩れたときに、病気という形をとって健康回復を図ろうとします。つまり、病気とは、健康回復活動そのもののなのです。がんのメンタルケアで有名なサイモントン療法では、「病気は、否定的な問題解決者である」と言われています。例えば、家族や大切



ANIMAL REIKI ASSOCIATION
Harmonize the Earth with Animal

な存在（ペットにとっての飼い主さんなど）との触れ合いが病気（不健康）になったとき、病気が問題解決者としてやってきます。病気になった家族やペットを周囲の者はいたわるでしょうし、目をかけ手をかけ心かけるようにもなります。つまり、病気という形をとっているの、一見否定的ですが、それによってつながりや関係性といった社会的な健康を取り戻す側面が病気にはあるというわけです。最近、愛犬の調子が悪くなりましたが、仕事で忙しく社会的健康（触れ合い）が欠けていたことに気づきました。アニマルレイキとコミュニケーションで触れ合うと、とても満足していることが伝わってきました。ペットの病気は、飼い主さんとの社会的健康（触れ合い）が欠けていることのサインである場合もあるということです。

結局のところ、動物の健康と幸せは、飼い主さん次第。飼い主さんこそが、ペットの健康と幸福の鍵を握る最重要人物です。

アニマルレイキとペットサインは、動物や自然、地球や宇宙とのつながりを回復し真の健康と幸福を手に入れることができる大変すぐれたメソッドです。互いに異なる方面からアプローチしながらも目指すところは共通し、組み合わせることによって高い相乗効果を発揮するメソッドです。

さまざまな視点や多角的なアプローチを持った、アニマルレイキとペットサインを広めることにより、人も動物も笑顔が溢れる世界を作っていきたいと思います。



↑愛犬コロと桜の木の下にて

発行責任者：一般社団法人アニマルレイキ協会
問い合わせ先：一般社団法人アニマルレイキ協会
tontonswine@gmail.com
080-5434-0128(福井)

初版発行年月日：平成28年6月

ホームページ：<http://animal-reiki.jp>

本冊子の内容（文章・図・写真等）は著作権で保護されております。無断での複製・転載・加工・流用や第三者への譲渡・再販売・オークションへの出品などは法律によって禁じられております。